



SINGING RING

INTERVIEW WITH SION KAZU

interviewer&text by Hiromi Seta design by Saori Seta

心とカラダを美しく浄化する音

What is "Singing Ring" 「シンギング・リン」とは ——

私たちが日常的に聞いているほとんどの音が、圧縮され、ノイズ除去されて、周波数を変換されたかなり薄っぺらな状態になっています。食べ物でいうなら、リアルフードではない、栄養素だけを取り出したビタミン剤のようなものです。ところが自然界には、豊かなゆらぎをもつ「倍音」があふれていて、この音に人のカラダの不調を癒す力があります。つまり錠剤にはない多様な栄養素がそこにはあるということですね。でも実際には、自然界に身を置けるような機会を頻繁に持てるわけではありません。そこで日常生活の中でも、自然のゆらぎのある倍音豊かな音を浴びられるようにと考え、開発したのが「シンギング・リン」という楽器です。シンギング・リンの音色には、F分の1のゆらぎが出ていることが、昨年の学術研究でも検証されました。東京工業大学を中心とする工学部系の教授、さらには音響と振動を専門とする教授陣が、シンギング・リンの他、クリスタルボウル、チベタンボウルとの比較実験を行い、それぞれの特長を明確にすることができました。

シンギング・リンの特長は、倍音が非常に豊かなことです。逆に倍音が豊かであるがゆえに音程は作りにくいんですね。実は自然界というのは音階という概念がありません。音階は、音楽という芸術を花開かせるために人間が造ったルールなのです。小鳥の声に音階があるように聞こえますが、実際には自然界にある音階に似たようなメロディだということになります。ルール上の音階ではない、自然界の倍音に満ちあふれているのがシンギング・リンという楽器が奏でる音色なのです。

クリスタルボウルは音楽を奏でるのに優れた楽器です。一方、チベタンボウルは、倍音が豊かであるにもかかわらず、その倍音が整然としていないために倍音同士が潰し合い、音が広がらずにすぐにきこえなくなります。シンギング・リンはその精密な構造により、音の波状がきれいに形作られ、倍音が整然と、しかも非常に美しくきれいに響き合います。これらの1つずつの倍音は実は2本の周波数で

構成されていることが、このたびの研究で新たに発見されました。そしてこの2つの周波数の間隔がF分の1のゆらぎを作っていることがわかったんです。シンギング・リンの場合、この間隔がすべて一致しているために、すべての倍音が自然界に匹敵するF分の1のゆらぎをつくり上げています。まさに第一級の職人技によって完成された芸術品だといえます。

クリスタルボウルはクリスタルを原材料とし、チベタンボウルは金属、シンギング・リンは銅をはじめとした金属とクリスタル(ケイ素)をあわせた、新しい超合金です。この超合金のシンギング・リンを2つ置いて鳴らしあった時に「音場」ができます。シンギング・リンのセラピーでは、その音場にクライアントが横たわり、エネルギーの往来によって起こる同調化現象によって人を細胞レベルから癒していきます。この音場における同調化現象をテーマに今年からさらなる研究がスタートする予定です。

さらには昨年、脳波研究の世界的第一人者でもある満倉靖恵工学博士による脳波解析実験も行いました。博士が開発した感性アナライザを使用し、シンギング・リン使用時の脳波を110名の被験者を対象に測定したものです。この測定実験から、81%の人がストレスが軽減され、79%の人が沈静度が増幅したという驚くべき結果が出されました。

実は以前にも、日本医科大学でシンギング・リンによる脳波測定実験を行なったことがあります。アルファ波、ベータ波、シータ波を測るものでした。その時はシンギング・リンを5分間聴いた段階で被験者全員、前頭葉までアルファ波が出たんです。前頭葉までアルファ波を出すには、かなり修行を積んだお坊さんでも1時間以上の瞑想をしてやっとそういった状態になるのだそうで、これは非常に珍しいことなのだと言われました。

今回の実験で特に興味深かったのは、被験者がシンギング・リンを好きか嫌いかわからず、または興味を持っているかわからないかに関わらずにストレス

INTERVIEW WITH SION KAZU

値が軽減され鎮静度が高まった点です。音楽などを例にあげればわかりやすいですが、好きな音楽を聴いているときにはリラックスできて、嫌いな音楽ではリラックスすることは不可能です。ところがシンギング・リンにはまったくその影響がないんですね。

シンギング・リンは、人のからだに音の振動を伝えることで血流をよくします。代謝を高め活性させることで、カラダを温め、排尿、排便、解毒を助けます。この穏やかなる変化は、最終的に自分のカラダの免疫力と自己治癒力をあげてくれることに繋がっていきます。

ある研究者（大学教授）から、最近よく話題になる「冷え」について、水分子という観点から非常に興味深い事実がわかってきているという話をうかがう機会がありました。そのお話は次のような内容でした。「水にとって36°Cから37°Cの温度変化というのは、水のエネルギーを変換する温度である。水は温度の変化によって固体、液体、気体と変化し、36°Cから37°Cに温度が変わるときに水分子のエネルギーが、それまで抱えて持っていたいろいろなものを手放そうとする。36°Cの水分子は不要なものも含め、どんどんいろいろなものを取り込み変形し、身動きがとれなくなる。ところが37°Cになると水分子が動き出して、今まで取り込んだものをどんどん手放していく」と。実はこれと同じ現象が、シンギング・リンの音を聞くことによって、体内で起こっているらしいんですね。体温は変わらないのに音によって水分子が37°Cの時のような状態になる。人間の体の70%は水でできています。水は、温度だけではなく、音のエネルギーによっても変化する可能性があるということだと思えます。

また、こんなお話もうかがいました。がん細胞には、まったくコミュニケーションをとらなくなった水が、びっちり周囲にくっついてしまっているそうです。コミュニ

ケーションをしない水というのは、イオン交換をしなくなった孤立した水分子のことです。この水がイオン化する電子を出せるようにするには、温度を上げる必要があるのだそうです。だから熱を与えて温める、あるいは振動や音を与えることで、ガン治癒の可能性が見えてきているということでした。今後、シンギング・リンの研究を進めることによって、音と水分子、さらにはがん細胞との関係を解明できるのでは、とも考えられます。

音と周波数というのはある意味一緒です。私たちが音とっているのは耳で聞こえている可聴域をいっていて、周波数というのは音を含む全部の振動の物理的な現象のことをいっています。周波数は、宇宙エネルギーと呼ばれている物理的に目に見えない光や色も周波数の中に入ります。シンギング・リンには人間の耳で音として認知できない音域も全て入っていますが、ダウンロードされた音楽やCDは、聴き手が耳に心地良い音を再現するために、雑音などをすべて取り除いて作っています。でも現実の世界では、雑音というものが常に存在するわけです。たとえば、小鳥のさえずり、風や雨の音、人の話し声など、自然界の音を聴いているときは全領域を私たちは聴いているので、脳はフル稼働しています。脳をフル稼働させなくてもいい状態の音が、ダウンロードされた音楽やイヤホンで聴く音です。人は聴きたい音を優先して聴くという能力を持っています。確かにたくさんの雑音があると、聴きたい音だけに集中したいと感じますが、本当であればそこに存在している音を排除して、耳心地のいい音だけを聴いてしまっていると、脳は「聴きたい音を聴く」という働きをしなくなります。そうするとどうなるかというと、普段からイヤホンで音を聞くことに慣れている方がシンギング・リンの音色を聴いた際に「頭が痛い」ということが起こります。脳が音を選択しなくていいように作り変えられた音ばかり聞いてたので、今まで使っていなかった脳の筋肉が急に動き出して、筋肉痛のような現象が起こっているわけです。

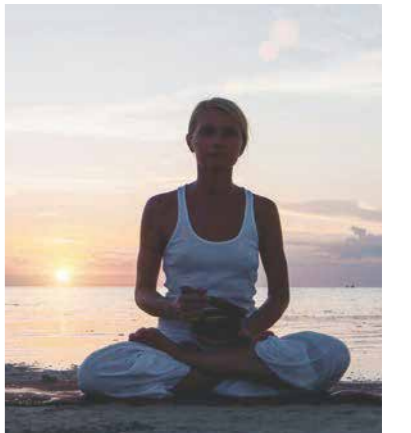


image copyright borrow 2017 used under license from AdobeStock

これを継続し、脳を鍛えていくと、今まで動かなかった体のパーツが動くようになってきます。脳は使わなければ退化していってしまうんです。

騒音は困ったものですが、雑音というのは実は常に自然界に存在するものです。でも脳にはちゃんと集中したい音を選択して、いらぬ音を消す力があるのにもかかわらず、そこを育てない意味もなくイライラしてしまったり、精神が不安定になって、攻撃的になったりするようなことも起きてきます。脳は鍛えていかないといけないんです。自然界のさまざまなものが完璧なバランスで調和した状態、この配合は人知を超えたものです。宇宙の壮大なる組み合わせといてもいいでしょう。そこと人を繋ぐような道具が、クレイであり、シンギング・リンであると思います。私は自然回帰をうたって、今享受してい

る便利さや快適さまでを全否定するのは無理があると思っています。環境のことを考えればある種のジレンマも残りますが、いくら田舎暮らしが良いといっても、皆が皆、田舎に暮らせるわけではないですし、都会の中で役割を持って働いている人もいます。そんな中でも、ちょっとした知恵を使うことで、自然や宇宙の摂理に寄り添った生活を手にすることが出来るのではないかと思っていて、その知恵のひとつが「音」だと考えているんです。

宇宙は一条みだれることのない規律で、全て数字で表すことができるといわれています。シンギング・リンは職人さんがまさにこの宇宙の法則にのっとって作っていますから、他のボウル楽器にはない完全共振共鳴という現象が起こります。しかもシンギング・リンに対する興味の高度に関わらず、効果がでてしまうと

いうところにその可能性を感じずにはいられません。ここに人類が、国や宗教などとは別のところで繋がれるチャンスがあるように思います。顕在意識ではなく、潜在意識という深いところで繋がることのできる「インナーネット」。もしかしたらシンギング・リンがそのツールになっていけるかもしれません。

「音」とは何かを理解できずにカラダの不調を抱えたままの方が、今とても多くいらっしやいます。自然療法の原点は、個々の持つ自然治癒力であり、セラピーは単にそのきっかけを作っているだけです。ですからセラピスト自身が、自然を見直す努力を惜しまず、お互いに情報交換をしながら人間の知恵をフル活用し、より良いものを使いこなしていくことが、これからの時代、とても重要になってくるのだと私は信じています。

ORIGINAL ALBUM



Singing Rin Meditation P.R.E.M Featuring Sion Kazu
シンギング・リン メディテーション
和真音 (シンギング・リン) P.R.E.M (音像デザイン)
谷崎テトラ (プロデュース) 定価 3,000 円 (税別)



音神話
和真音 (シンギング・リン) 片岡 慎介 (音楽制作)
竹下 雅敏 (監修) 定価 3,000 円 (税別)

※クレイ Shopping にて販売中。



「シンギング・リンによる誘導瞑想-1』ザ・リバーシング 一母と子の癒しー
定価 2,800 円



聖なる鈴響 (せいなるりんね)
和真音 (シンギング・リン) 川崎 義博 (サウンドデザイン)
能村 ゆかり (プロデュース) 定価 2,800 円 (税別)

和真音 Sion Kazu

Sion Inc. 株式会社代表

シンギング・リン開発者・演奏家、心理カウンセラー。静岡大学大学院、上智大学カウンセリング研究所卒業、教育学修士。夫の転職により8年間アメリカで生活。その間、長女の病との闘病と 9.11 をニューヨークで体験。帰国後に衰弱してしまった心身を癒す音を求め、2004年に日本の伝統工芸の技術を駆使して音響楽器シンギング・リンを開発。映画「地球交響曲第6番・第7番」、七田真氏の長編ドキュメンタリー映画「魂の教育」に採用された他、音響の分野に限らず代替医療の分野でも専門家の注目を集めている。CD『聖なる鈴響』『音神話』をリリースし、2015年3月、「全倍音セラピー CDブック」を出版 (BAB ジャパン)。新しく音響療法の世界を確立すべくセラピストを輩出・育成すると同時に、国内外でシンギング・リンの普及と演奏法の開発、社会活動に尽力している。Sion Inc. <http://www.sion-inc.com/> ☎0120-969-836

